

(別刷)

## 生涯学習と卒後研修

— 対人援助職のドロップアウトをふせぎエンパワメントの可能性をさぐる —

川口 一美

生涯学習研究

— 聖徳大学生涯学習研究所紀要 —

第18号 別冊

2020年3月

# 生涯学習と卒後研修

—対人援助職のドロップアウトをふせぎエンパワメントの可能性をさぐる—

川口 一美

本研究は、学科を卒業した学生に学科がどのようなサポートをできるかを知り、また卒業生がどうしたら卒業後も大学に足を運んでくれるかを考えることを目的としている。とりわけ、対人援助職は早期離職が多い仕事とされている。その中では職場の人間関係や仕事のミスマッチなど人とやりとりすることの不整合が理由として挙げられ、そこをうまくやっていくスキルがあれば、今後の仕事にも役立つのではないかと考える。大学4年間苦労して学び、希望や夢を胸に羽ばたいた卒業生たちが一日でも長く、希望する場所、仕事、職場で活躍できるようサポートしたいと考えている。

また卒業生の会という縦のつながりや各種専門職養成という他職種連携の横のつながりも維持し、有効活用できたらと考えている。この取り組みが機能することで、卒業生への支援のみならず、在学生、受験生への卒後の進路を可視化し、卒業後の進路の不安も減少すると考える。よって、今後どのような卒後研修の内容や卒業後のサポートができるかを考えたい。また、そのサポートが定着することですべてと学ぶという生涯学習の大学の活用の動機付けになればと考える。

## 1. はじめに

人生100年時代である昨今、国民の誰もが活躍する場、元気に活躍できる社会、安心して暮らせる環境が必要とされている。それを実現するのに欠かせないのが、「ひとづくり」である。このひとづくりはいつから、どのようにして行っていったらよいのか。とりわけ私たちは専門職養成、高等教育の現場で、多くの卒業生を輩出している。その卒業生の教育も人づくりの一部であるといっても過言ではない。

聖徳大学社会福祉学科は2005年(平成17年)に人文学部社会福祉学科としてスタートした。また2012年(平成24年)に心理・福祉学部社会福祉学科となった。2019年3月には12回目の卒業生が社会に旅立っていった。

社会福祉学科では卒業生をサポートするため、また、社会に出てからも卒業生が集まれる場所、研鑽の場所として、「社会福祉学科卒後研修」を年1回開催している。卒後研修会は卒業生と教員で組織されている。卒業時に卒後研修会の入会を勧めている。年1回の卒後研修会は8月末の週末(土曜か日曜のことが多い)に実施される。基本的に会の運営は学科の教員、卒業生によって行われる。その年の3、4年生担任が中心になりつつ、毎年研修会内で決定される会の役員(卒業生)を交えながら行っている。

ただ、実際に何年かの卒業生を送り出し、卒業生に会員になるよう告知をしても年々、加入者が減っていく一方だっ

た。また、年1回の集まりで月や曜日等固定してもなかなか卒業生がこぞって来るという状況ではなかった。それには、広報の工夫等の配慮がたりなかったこともあるだろう。

だが、卒業生と教員、大学が接触する機会は、学園祭やおのおの都合のつくときに連絡をして教員に会いに来たり、メールや電話等で話すような場面で、同じ卒業生がというわけではないが、継続的にあった。卒業生の仕事柄、内定が出たり、就職先が決まったり、国家試験に合格したりなど理由は様々だ。中には結婚、出産等の報告や離職(退職)等の相談などもあった。

話をしていると学生時代のように、「他の卒業生(自分のクラスだった友達)にも会いたい」とか「職場でいろいろある苦労」を「あるある」といいながら共有し、「また頑張る。また来る」と帰って行く卒業生が多く、同じ悩みを持つ卒業生同士や悩みの壁を越えた卒業生とを引き合わせ、ピアサポートやスーパービジョン、コンサルテーションをする場に行かないか、せつかくのこのような機会をもっと活性化したり、きちんとした学びや、振り返りの機会に行かないかと思うことが多々あった。また、卒業生と母校との関係が単なる卒業した場所としてだけでなく、いつでも戻ってきてリフレッシュしたり、学べる場所、自己研鑽の場所にならないかと考えた。卒業生がまたやる気になったり、元気になってエンパワメントされるそんなきっかけにならないかと考

えた。

## 2. 近年の日本の福祉分野における労働市場の動向

厚生労働省の平成25年労働市場分析レポート(第21号)によると、福祉分野の雇用には、主な産業の雇用者の中でも増加が際立っている。

表1 医療・福祉の雇用者数と内訳

	平成14年	→	平成24年	9年間の増加数
医療・福祉	469万人	→	676万人	207万人(100.0)
福祉分野のみ	188万人	→	333万人	145万人(70.0)

出典：総務省統計局「労働力調査」

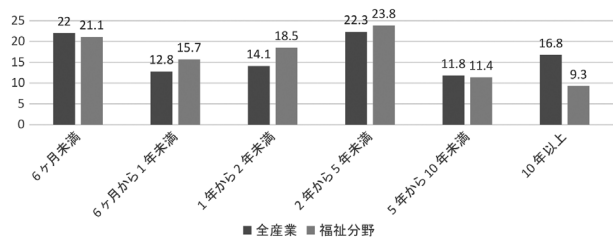
医療・福祉は平成15年から平成24年までで、207万人増加している。このうち福祉分野は145万人の増加である。(この分野の7割を占めている。また、福祉分野は女性が8割を占める。)

福祉分野の入職率を全産業平均(14.2%)と比較すると福祉分野(18.7%)の方が高く、また全産業と離職率を比較すると福祉は16.3%で、全産業は14.2%となっていて、離職率は福祉分野の方が高い。注目すべきは離職者の勤続年数であるが、全産業と比べ、5年未満までは福祉分野の離職が全産業と比べ高くなっている。

離職者の勤続期間

	6ヶ月未満	6ヶ月から1年未満	1年から2年未満	2年から5年未満	5年から10年未満	10年以上
全産業	22	12.8	14.1	22.3	11.8	16.8
福祉分野	21.1	15.7	18.5	23.8	11.4	9.3

図1 離職者の勤続期間



出典：厚生労働省平成25年労働市場分析レポート(第21号)

よって私たちはこの仕事が軌道に乗るまでの5年間と結婚、出産等、また子育てで手が離れた頃などのライフイベントの時期あたりのサポートやフォローが必要なかもしれない。ただ、現在の学科ではまだ卒業生のライフイベントを網羅するだけの離職の要因や離職に関する情報の蓄積を持ち合わせていないので、今後も継続的に卒業生からの情報収集をする必要があるだろう。

## 3. 社会福祉学科の卒後研修会とその目的

聖徳大学社会福祉学科卒後研修会は、聖徳大学人文学部並びに心理・福祉学部社会福祉学科卒業生(以下「卒業生」)に教育・研修の機会を提供することにより、福祉・教育・保育等の専門職の養成と専門職能力の向上を図ることを目的としている。

この会の具体的な活動は6つある。①困難事例等に対する相談支援、②社会福祉、養護教育等に関する研修会、③事例報告、職場活動等の報告会、④社会福祉士、精神保健福祉士、介護福祉士等国家試験対策講座、⑤養護教諭等採用試験対策講座、⑥そのほか会の目的に合わせた必要な活動を行っている。これらを第1期の卒業生を送り出してから今日まで続けてきた。

また、会の活動計画や収支予算等を審議するための総会を年1回開いている。(これが現在は卒後研修会+総会という形で8月に実施されているものである。)

実際の会の計画や運営のために運営委員会を設けており、10名の運営委員によって、構成されている。また、運営委員会で選出された運営委員長が会を代表する仕組みになっている。(運営委員の内訳は、社会福祉学科教員によって推薦された教員5名と卒業生によって推薦された卒業生5名となっている。)運営委員は毎年総会において選出し、改選される。

教員については、卒業年度等の担任がその年に選出され、運営委員をすることが多い。(卒業時に会への入会を呼びかけるためその方が都合がよく、また進路、ニーズをリアルタイムで確認しているので卒後研修のテーマ等も考えやすい。加えて、3年生の担任も配置することで、次年度へのつながりも可能となっている。これらを学科の各教員がしていくことで卒後研修の意図や目的を全員が知り、実際に運用することとなる。

希望すれば在校生もこの会の研修に参加することができる。近年は、卒後研修についても聖徳大学社会福祉学科の価値、重要な教育の一部と考え、学科のパンフレットに卒後研修をトピックスとして取り上げたり、夏のオープンキャンパスとタイアップし受験生や保護者にも、在学中のみならず、卒後のフォローもあるということを知ってもらう試みをしている。

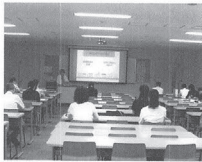
## フィールドワーク

福祉・教育を学ぶ学生にとって実践は重要です。社会福祉学科では大学での講義だけでなく、実際に現場に出て、地域の福祉機関や学校、住民との関わりを通じて自らの学びを深める授業を展開していきます。例えば住民に対してアンケート調査を実施、住民の前で発表を行います。この経験によって課題発見力が向上していきます。また学生が街歩きをし、社会資源マップを作成、そのマップを住民に活用してもらっています。これらの活動が地域の活性化や社会貢献活動になり、これからの福祉社会づくりに寄与しています。

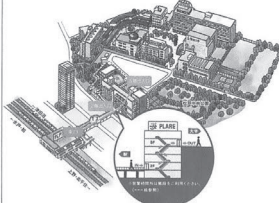


## 卒後のキャリアフォローも安心 (社会福祉学科 卒後研修会)

社会福祉学科では卒業生の勉強、交流、連携、就職(再就職)の情報交換の場を年1回卒後研修会というかたちで持っています。さまざまな卒業年度の卒業生たちが一堂に会し、専門分野のブラッシュアップ、他職種のココネットワークを結び、TEAM 聖徳の和を広げています。また、卒業後の国家試験、採用試験対策等についても情報提供、サポートをしています。コースによっては月1回の卒業生主導の勉強会を行っています。



JR常磐線・JR乗り入れ地下鉄千代田線・新京成線  
近くて便利!松戸駅下車、東口から徒歩5分!



イトーヨーカドー内エスカレーターを利用できます。  
随時正しい進路情報をご利用ください。

**聖徳大学** 心理・福祉学部  
社会福祉学科  
SEITOKU <https://faculty.seitoku.ac.jp/social-welfare/>

【受験相談フリーダイヤル】  
**0120-66-5531**

<http://www.seitoku.jp/univ/>

TEL047-366-5551 (直通) FAX047-366-5553

〒271-8555 千葉県松戸市船橋550 TEL047-365-1111 (大代)

受験生の公式サイト <https://ouen.seitoku.ac.jp/>



最新情報やトピックスをお届け!

18/05/05

また2019年度の今回社会福祉学科では大学の卒業生の会、香和会のサポートを受け、卒後研修会のお知らせをいつもより多くの卒業生に送付した。

## 香和会の同窓会・後援会推薦入学試験って?

香和会では、香和会員の子女、または孫、そして香和会員本人が、同窓会・後援会推薦の枠を利用し、入試試験を受けることができます。  
出願資格は以下のとおりです。

- (1) 高等学校もしくは中等教育学校を平成29年3月に卒業した人、または平成30年3月に卒業見込の人。
- (2) 本学を第一志望とし、人物、学業、健康とにもすぐれ、志望学部・学科の勉強に強い意欲をもっている人。
- (3) 志望学部・学科の特色を理解し、入学後も積極的に学習に取り組みする資質能力のある人。
- (4) 志望学部・学科の実技、実習および教員免許状、保育士、管理栄養士受験資格等を得る場合は当該の実技、実習、実験等に支障のないこと。
- (5) 本学同窓会会員または本学後援会会員の推薦を受けられる人。

### 香和会特待制度とは

香和会員の子女、または孫、そして香和会員本人を対象とした制度です。  
対象者は出願と同時に申請することで、入学金を10万円免除します。  
親子二世、三世代間の入学や、卒業生のキャリアアップ・再チャレンジに際しての入学を支援する特待制度です。

### 入試特待制度とは

同窓会・後援会推薦入試の志願者で、出願時における高等学校の全体評定平均値が基準を満たす場合、また、指定された資格を取得している場合、入学金および入寮費(入寮希望者のみ)が免除になります。  
ただし、「香和会特待制度」との併用はできませんので、ご注意ください。  
さらに、一般入試、センター試験利用入試の志願者で、合計得点率が基準以上の場合、授業料および入寮費(入寮希望者のみ)が免除になります。

またクラス担任をこれまでしていた教員から可能なかぎりお知らせ連絡を個別にし、都合が合うようならと声をかけたり、多くの卒業生や家族等の有益な情報提供となるよう、卒後研修会のお知らせと大学の卒業生の推薦枠(香和会推薦)の活用の広報も行った。

## 卒後研修会を開催します

### 卒業生のみならず

今年の夏も格別に暑い日々が続いていますが、いかがお過ごしですか?  
さて今年も「卒後研修会」を開催することになり、過去10年に遡りご案内しています。卒業生同士や教員との交流の活性化、専門職同士の情報共有や自己研鑽のために、是非ご参加下さい。そして、在校生に今後の進路を考えるきっかけを授けていただけると嬉しいです。

日時: 令和元年 8月24日(日) 午後 ※詳細は下記をご覧ください  
※オープンキャンパスとの同時開催になります。

場所: 聖徳大学 1号館 B1F (1054教室)

### 【卒後研修会 内容】

- 12:00 受付開始
- 13:00 開会(総司会: 赤羽先生)  
学科長挨拶  
今年度会長挨拶
- 13:10 講演: 『バーンアウトを防ぐ&ストレス軽減』(担当: 豊田先生)
- 14:00 座談会: 『仕事の悩み、ストレス解消法』(司会: 赤羽先生)
- 14:30 ワーク: 『笑いヨガ』(担当: 久米先生)
- 15:00 卒後研修会 総会(～15:30)
- 15:30 閉会



『笑いヨガ』は、誰でもできる笑いの健康法で、ユーモア、冗談、コメディは使わず、理由なく笑うというユニークな方法です。

笑いの体操と、ヨガの呼吸法をあわせているところから笑いヨガと呼ばれています。酸素がたくさん取り入れられ、健康と活力が実感できます。

体操としての笑いでも、おかしいと感じて笑っても、身体への健康効果は全く同じです。グループで笑っていると、おもしろくなくてもだんだん楽しくなってくるので、無理なく続けられる運動です。

### 【問い合わせ先】

社会福祉学科助手 武田先生(内線: 5215)  
担当教員: 平成30年度卒業生担任(赤羽先生、川池先生、川口先生、久米先生)

**聖徳大学**  
聖徳大学短期大学部

社会福祉学科のHPはこちら→



社会福祉学科のみならずではあるが、姉妹や母親、祖母等が聖徳の卒業生である学生も少なくない。2世代で聖徳の卒業生、在校生という人の多くは聖徳のファンであり、在学中の教員、大学職員の手厚さが良いと自身の経験から受験、進路等を進めていることが多い。よって、毎年一定数の身内に聖徳卒業生がいる学生が入学してくる。また、親の背中を見て、同じ仕事を選ぶ学生も少なくない。そのような学生は、親や関係者の紹介で聖徳を目指したり、知り合いが聖徳という声も多い。

## 4. 近年の卒後研修会の実際

卒後研修会の実施のお知らせと同時に、国家試験や各種対策講座、各資格の分野の教員から情報提供からなる、会報を年1回「たより」として会員(卒業生)に送っている。

発行日：平成31年4月1日

# 聖徳大学社会福祉学科卒業研修会 「たより」 vol.10

## <社会福祉学科長挨拶>

卒業生の皆様、お元気でしょうか。卒業してからいっしょにやっていますか。本年度（平成30年度）、社会福祉学科長に就任した山田千香子と申します。よろしくお伝えいたします。

皆様は、卒業後、それぞれの職場で与えられた仕事内容、与えられた役割、あるいはご家族のために、ご自分の持ち分を活かしながら活躍されていらっしゃるかと存じます。女性もそれぞれのライフコースを迎えながら、目指した仕事を続けていくのはなかなか、大変なことでしょう。私自身も高い壁、低い壁に直面しながら、迂回したり、乗り越えたりしながら、現在に至っております。

皆様の母校である聖徳大学心理・福祉学部社会福祉学科は、2019年4月入学生で第15期生を迎えます。学年定員は80名。18歳人口激減の厳しい状況の中、中学生募集、教育の質の保証、実就職率96%以上を目指して教職員一同頑張っております。お陰様で本年度は定員に近い入学希望者が集まってくれています。就職率も上昇し、社会福祉士、精神保健福祉士、介護福祉士の国家試験合格者も全国平均を超えています。

大学全体としては、大学教育改革に着手し女性大学No1を目指しています。キャンパス内も充実させていますので、皆様が在学されていた頃と大きく変わったかもしれません。大学図書館、新1号館、8号館、10号館はクリスタルタワーのガラス張りで、聖徳のシンボリックな建物になっています。

卒業研修会は卒業生の皆様、現在の社会状況の把握や社会問題にどう対応するかなど、できるだけ最新の研究内容の紹介、さらに、卒業生の抱える問題の解決に少しでも役に立てる場所として、また、皆様が気軽に集う場としても、学科ネットワークを充実したものにしていきたいと考えております。後輩たちが頑張っている聖徳祭へお出かけください。

また、今年も卒業研修会は充実した内容を企画しております。ぜひお出かけになって、私たちに卒業のお話を聞かせてください。

社会福祉学科長 山田千香子  
yamada.chikako@seitoku.ac.jp

## <卒業研修会運営委員長挨拶>

卒業生の皆様、お久しぶりです。お元気ですか。卒業してからいっしょにお過ごしでしたか。今年も平成が終わりに、新しい元号の新しい時代が動き出す年です。社会福祉学科は平成と共に生まれ育ってきた学科です。この時代の変化と共に今後ますますフレッシュ&POWERUPし、皆様と共に進んでいきたいと思っています。

そこで卒業生の皆様と社会福祉学科の教員や在校生と一緒にググを組む、地域や社会でますます活躍するための第一歩として、ぜひ卒業研修会にお越しください。そこで様々なご縁のネットワーク、関係づくり、そして情報交換、勉強もしましょう。（テスト等はありませんがご安心ください）

皆様にお目にかかれることを楽しみにしております。

卒業研修会運営委員長 川口一美

## 保育士

須田 仁

卒業生の皆さん、こんにちは。それぞれの職場で元気に活躍していることと思います。「働き方改革」と言われ、職場環境も以前とは違ったり、処遇も改善されつつあるかも知れませんが、しかしながらまだまだ保育園の先生の処遇改善はこれからです。ただ、子どもたちに対しては誠実に明るく接して、良い先生になってくれたらと切に願っています。子どもたちの成長が先生の喜びですから、今年も保育士資格を取得した後輩が公立の保育所や指導員として活躍&これから活躍しようとしています。ぜひ卒業研修会に集い、抱えている問題等情報交換をしながら、学びあえることができればと思っています。ぜひ西智子先生をお呼びして勉強会なんていうのもいいですね！企画したいと思っています。その際にはぜひお集まりください。

## 養護教諭

小林 芳枝

卒業生の皆さん、こんにちは。養護教諭コースは今年度5回目の卒業生を送り出します。養護教諭の採用は現在もとても厳しい状況が続いていますが、それでも卒業後に講師として経験を積みながら試験対策に励み、合格を果たした方が増えています。諦めずに夢を実現させてください。

毎年、私の社会福祉演習（3年次ゼミ）の学外授業で高等学校と特別支援学校の見学を行っています。今年度訪問した高等学校では、本学の卒業生が正規採用されて頑張っていました。また、養護実習の巡回で本学の卒業生にお会いすることもあります。社会福祉学科を卒業した皆さんは、子どもたちを取り巻くいじめや虐待、貧困などの現代的課題にも対応している力を備えていると思います。

しかし、日々いろいろな問題に直面するのが現場です。卒業生による自主研修会が行われていますので、是非参加してみてください。実践でのつまずきや疑問など情報交換し、毎回たくさんの気付きがあるようです。気軽に参加し交流を深め、子どもたちの支援に役立ててくださることを願っています。皆様のご活躍を期待しています。

今回は、社会福祉士、精神保健福祉士、介護福祉士、保育士、養護教諭と資格別に、担当されている先生方から、情報や受験対策に関するアドバイスやコメントを頂きました。

社会福祉士・精神保健福祉士は向井智之先生、介護福祉士は赤羽克子先生、保育士は須田仁先生、養護教諭は小林芳枝先生がご担当されています。皆様の勉強にお役立て頂けたらと思います。

## 社会福祉士・精神保健福祉士

向井 智之

卒業生の皆さん

如何お過ごしでしょうか。社会福祉学科を巣立ったあと、それぞれの場所でそれぞれの役割を持ち、日々活躍されていることと拝察いたします。

多くの方は、社会福祉分野の職場で活躍のことと思いますが、様々な社会的影響を受けて、ご苦労も多いことでしょう。児童虐待、障害者就労支援事業所の減収、地域の高齢化、介護施設建設反対運動など、次々に問題が浮き上がってきています。しかし、だからこそ、専門家として頑張っていく必要があるとも言えます。

とくに、来年度には、パラリンピックが控えています。それに向かって、すでに障害者に対する社会の視線が集まっていますが、障害者だけのものではありません。パラリンピックでは、インクルーシブな社会の創造が目指されています。この機会を上手く活かして、障害者を含む、日本全体の福祉向上につながることを期待したいと思います。

そして、私たちは、一人ひとり小さくても、それぞれがそれぞれの場所で、できることに一生懸命に取り組むことで、その下支えができるのだと思います。お互い頑張りましょう！

## 介護福祉士

赤羽 克子

卒業生のみならず、こんにちは！お健やかにお過ごしのことと思います。

介護福祉コースは2019年3月に9期生7名を送り出します。卒業後の進路は、内定が決まっている5名は介護福祉士（3名）、社会福祉士（1名）、介護職（1名）として就職し、2名はそれぞれ就職活動中です。

昨年度卒業生から介護福祉士養成施設の卒業生にも国家試験の受験が義務付けられました（5年間の猶予期間あり）。合格率は100%でした。頑張りました！今年度の受験生たちも先駆者に続き100%目指して頑張っています。

さて、介護の現場のグローバル化は急ピッチで進行しています。EPA（経済連携協定）や発展途上国の労働者が日本で技術を学ぶ「外国人技能実習制度」今年度スタートしました。介護の現場の聖徳で介護福祉を学んだものとして尊敬ある介護を外国人に伝え、ともに実践してほしいと思います。みなさんの可能性は無限大です。

さらなるご活躍を期待しています！卒業後の人生に幸あれ。

## <平成30年度卒業研修会報告>

平成30年度の卒業研修会は平成30年8月25日（土）13時から行われました。今回はオープンキャンパスとの合同企画として、聖徳大学1号館香順メディアホールにて実施いたしました。

まずはじめにシンポジウムとして「社会福祉学科 キャリアデザインサポート—福祉専門職を知る講座—」と題して、社会福祉法人等の人事担当や行政の福祉人材確保担当者等から福祉専門職の必要性や福祉現場の生の声を伝えることで、キャリアに役立ててもらうこととしました。松戸市内の社会福祉法人3箇所、松戸市介護保険課の専門監などからお話をいただきました。現場で求められている職員像や聖徳大学に期待することなどお話しすることができました。

その後の総会では、平成30年度の活動・決算報告、平成31年度の活動計画・収支予算の承認を得ました。また、次年度の運営委員、会計監査委員、運営委員長を滞りなく選任いたしました。この卒業研修会も聖徳大学春和会（同窓会）と協働して、さらなる活動をしていきたいと思っています。

前年度卒業研修会運営委員長 須田 仁

## お知らせ

<社会福祉学科ホームページ>

URL: <https://faculty.seitoku.ac.jp/social-welfare/>



毎週更新中！ホームページを通して、聖徳大学や社会福祉学科の様子を知ることができます。ぜひお時間がある時に見に来てください。

※平成31年度卒業研修会の開催は、平成31年8月24日（土）に大学で行う予定です。多くの方の参加をお待ちしています。（日程は都合により変更になる可能性がありますので、決定次第改めてご案内を送らせていただきます。）

## <平成30-31年度卒業研修会運営委員、会計監査委員名簿>

（※運営委員、会計監査委員は平成30年8月25日（土）の会終了時点から切り替わりました。）

教員 川口一美 赤羽克子 川池秀明 北川慶子 久米知代  
卒業生 富田倫奈 吉岡咲姫乃 星夏紀 富永萌 武田エミリ  
会計監査 向井智之 伊藤真帆

<発行> 聖徳大学 心理・福祉学部 社会福祉学科研究室

〒271-8555 千葉県松戸市岩瀬550

Tel 047-365-1111 内線 5215（助手 武田 エミリ）

FAX 047-363-1401 E-Mail: [takeda.emiri@seitoku.ac.jp](mailto:takeda.emiri@seitoku.ac.jp)

卒後研修会の過去 10 年を振り返ると以下のような内容であった。

表 2 過去 10 年の卒後研修内容

実施年度	平成 21 年度	平成 22 年度	平成 23 年度	平成 24 年度	平成 25 年度
卒業生参加人数	4 名	10 名	16 名	14 名 + 在学生 4 名	25 名
実施内容	・研修 ・動向報告	・研修 ・動向報告	・研修 ・動向報告	・研修 ・動向報告	・研修 ・動向報告
実施内容	・研修 テーマ「母子家庭の貧困」 大倉正臣先生 ・卒業生の職場活動等の報告	テーマ「養護教諭採用試験の現状と各県別対策について」 小谷美知子先生 ・卒業生の職場活動等の報告	・研修 テーマ「社会人 3 年目の壁をどう乗り越えればいいのか」 キャリア支援課職員 ・卒業生の職場活動の報告	・研修 テーマ「二度目の災害から考える私たちにできること」 つくば市社会福祉協議会職員 老人福祉センター「とよさと」所長 荻谷由紀子さん ・卒業生の職場活動等の報告	・研修 テーマ「人を支える専門職のメンタルヘルス - その基本は自分自身をよく知ることから -」 国立精神・神経医療研究センター名誉所長 吉川武彦先生 ・卒業生の職場活動等の報告
平成 26 年度	平成 27 年度	平成 28 年度	平成 29 年度	平成 30 年度	令和元年度
17 名	8 名	8 名	7 名	10 名	17 名
・研修 ・動向報告 ・交流会 ・交流会①教員、卒業生館での自己紹介 ・研修 テーマ：異分野融合による国際連携災害研究で明らかになったこと ・交流会②近況報告、情報交換	・研修 ・動向報告 ・交流会 ・交流会①教員、卒業生館での自己紹介 ・研修 テーマ：「笑顔で生き生きと働くために」（組織における連携の重要性等、働く上で大切な姿勢について） 小林芳枝先生 ・交流会②近況報告、情報交換	・研修 ・交流会 ・研修 テーマ：「we are all pulling together. みんなキラキラ持ってます」 松原みき子先生 ・交流会	・研修 ・交流会 ・研修 テーマ：「ジェンダーで社会と人生を考える」 山田千香子先生 ・交流会	・研修 ・研修 テーマ：「キャリアデザインサポート講座」 シンポジウム	・研修 ・座談会 ・ワーク ・研修 テーマ：「できていますか？ ストレスマネジメント」 豊田宗祐先生 ・座談会「仕事の悩み・ストレス解消法」 赤羽克子先生 ・ワーク「笑いヨガ」 久米知代先生

出典：学科記録から筆者作成

基本的には参加した卒業生の近況報告と講演会という形が多い。近況報告も様々で、「就職して、〇〇をしている」というものや職員の募集、「××について困っているので情報提供をお願いします」、「退職を考えています」、「職場復帰を考えています。子育て中でも働ける場所はありませんか」、「皆さん自身や皆さんの職場ではどうしていますか」など卒業年度も異なり、面識もなかったり、職種や働く場所等違って情報共有や教を乞うなど活発なやり取りが毎年行われている。

ここではやはり仕事内容や、やっていることが違ってても共有できること、また仕事の経験年数などで共有できることがあるのではないかと考えられる。

講演については、毎年どのようなテーマや内容が良いか、どのような演者が良いかを検討するが、専門職が仕事を続けるために必要な自己のトリートメントを意識的に講演内容に選んでいることが多い。それが、自己啓発であったり、ストレスとの向き合い方やキャリア形成、自分と向き合うことなど様々な角度から今後のキャリアに役立つ内容を考えている。

また毎年卒業生に来てもらえるような工夫として、新しく入職した教員の得意分野での講演や交流会での顔合わせなど教員側についてもできるだけ多く入職前に卒業した卒業生とも接点を持てるようにしている。

## 5. 2019 年度の卒後研修会から

2019 年 8 月 24 日に 2019 年度の卒後研修会を実施した。その際の内容は、すでに表 2 で表したとおりだが、今回の会を考える際に、どの資格を取得した学生でも、専門職や現職であってもなくても役立つ内容、みんなで共有できる事柄、先輩、後輩などのつながりができるような内容をと考えた。また、講演で勉強し、座談会で今の悩みを吐き出し、ストレス発散の方法を共有するという一連の流れを考え組んだプログラムであった。今回特徴的だったのは悩みを吐き出して共有するだけでなく、それをまた今後自分で発散できるすべとして「笑いヨガ」という手段を提供し実際に講師を立てて行ったことである。

また毎年「定年等で退職された先生方にも会いたい」という声もあることから、退職された先生方にもお声かけをし、参加していただいた。

今回卒後研修会の中で卒後研修の参加者アンケートを実施している。(このアンケートの中でこのアンケート使用の許可をおののちに確認しており、許可が得られたものについて今回使用している。)

参加者は 2010 年の卒業生が最年長で、2019 年 3 月卒業の卒業生まで来ていた。旧クラス担任から呼びかけたこともあり、クラスごとの人数の多い少ないはあったが、各コースや各資格の卒業生が集っていた。

やはり、勉強をすることに加え、卒業生との交流、先生方

との交流も望んでいるのだと言うことがわかる。

研修会については、以下のようなコメントがあった。

- ・ワークが楽しかった。(2)
  - ・講演、座談会内容が良かった。(2)
  - ・後輩や友人と話す良い機会になった。
  - ・日頃悩み事が多々あったが、ストレスマネジメントや笑いヨガを通して、現在や今後の自分も見つめ直すきっかけになった。
  - ・学生時代のように講義を聴いて学生時代に戻ったような気がした。
  - ・いろいろな話が聞けて勉強になった。
  - ・お会いしたい先生にもあえてよかった。(2) (原文のまま)
  - ・自分の助けになることが学べて良かった。(2)
- 加えて、今後の研修会で勉強したいこと、取り上げて欲しいことなどについては、以下のようなことが挙げがっていた。卒業してどれくらいたっているかによっても学びたいことは異なってくるかと思うので、今後そのあたりのニーズも把握していきたい。
- ・養護教諭に関すること
  - ・生徒対応
  - ・家庭環境の複雑な子供に対するアプローチ方法など(困難事例対応)
  - ・(卒業時におられた)先生方による卒業研修をお願いしたい。
  - ・リスクマネジメント

より専門的な知識や情報提供、実践の場、業務等で悩んでいることを解決したいと望んでいることがわかった。おそらくこれについても今後卒業後の年数や仕事内容等で丁寧に見ていくと躓く部分や悩むポイントが各資格や職種事に見えてくるのかもしれない。また、今後長くこの研修会が続けば学科教員のみならず、キャリア支援課等と協力をしていくこと、就職、再就職や離職、潜在の専門職(資格保持者)のフォローなどをしていくことも必要になってくるのかもしれない。

## 6. まとめ

卒業研修会の内容やそこでの卒業生の声から、様々なニーズがあることが分かった。卒業研修会の日に参加できなくても、別の日に近況報告をしたり、当日行けないという連絡に加え、近況を報告してくれた卒業生も多かった。教員に個別に会いに来て相談をする学生もいる。仕事をしていく中で、職場外の相談の場はおそらくそう多くない。よって、大学に戻って研修を受けたり、教員や仲間の卒業生や在校生と話をすることで、また、聞いてもらうことで、ストレ

スを軽減できたり、自分を振り返ったりすることができるのではないと思う。卒業も学ぶ、職場外の関わりを増やすことで、女性が仕事も家庭もしながら日々過ごすもしくは自分の人生をうまくやっていくための何らかのヒントが得られるのではないか。

卒業研修に子供を連れながらやってくる卒業生や「主任になった」と昇格、成長を報告に来た卒業生、普段なかなか学生時代のように友人と会ったり、話したりする機会も少ないだろう。また仕事柄知りえた情報の保護という観点からも、誰とでも仕事のことを話せるわけではない。卒業研修会はその友人に会ったり、同じ場所や事柄を共有している仲間と会える場所、卒業生の言葉で言うなら「学生の頃に戻った感じ」で友人や教員と語り、職場では話せないが同業者や同職種だったら共有できることを通してのギブアンドテイクができるのではないだろうか。単なる情報提供ではなく、卒業して間もない卒業生は先輩の卒業生に今後の自分を重ね、キャリアを積んだ卒業生は、自分のこれまでを伝えることで後輩の指導となったり、教員と話すことでより専門的な知識を増やしたり共有することができる。

今後も社会の中で活躍するために、学びの場、相談の場、自分を振り返ったり整えたりする場としての卒業研修、卒業後の大学の関わりは有益だと考える。

長いスパンで個々の人の人生の再設計が可能となる社会を実現するため何歳になっても学び直し、職場復帰、転職が可能となるような対応、機会が必要とされている。人生100年時代を見据え、意欲ある人に働く場、活躍の場を準備する。ひとつづくりが、次なる時代や大学の在り方を切り拓くかもしれない。

## 参考文献

- 黒田静江 古川繁子 浅川繭子「同窓会活動に対する教員の支援のあり方」植草学園短期大学研究紀要 第11号 (2010)
- 厚生労働省 労働市場分析レポート第21号 平成25年10月29日
- 総務省統計局 平成30年度労働力調査
- 財団法人 介護労働安定センター 平成30年度労働実態調査結果

